

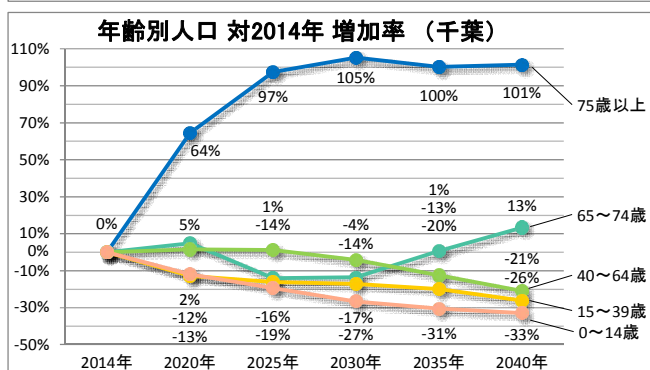
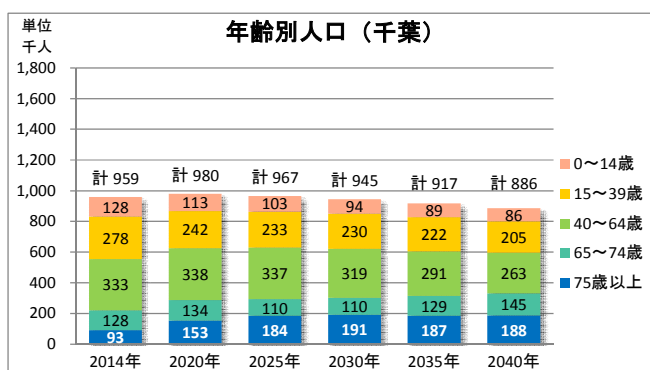
### 3 二次保健医療圏別資料

以下の資料は、「千葉県保健医療計画及び地域医療構想策定に係る調査分析事業 報告書」(平成 27 年3月・千葉県)からの抜粋であり、患者数の推計対象に一般・療養病床以外の病床利用者を含む等、独自の方法により推計したものです。

## 千葉保健医療圏

2020年をピークに、総人口は減少することが見込まれる。若年人口が減少する一方で、75歳以上の人口は2025年には倍増。

この人口構成の影響を受けて、入院患者数は2035年、外来患者は2030年をピークにそれぞれ、57%増、13%増。高齢患者の増加から2035年時点で、入院では「呼吸器系の疾患」、「内分泌、栄養及び代謝疾患」、「循環器系の疾患」、外来は「循環器系の疾患」、「筋骨格系及び結合組織の疾患」、「内分泌、栄養及び代謝疾患」が大きく増加することが見込まれる。

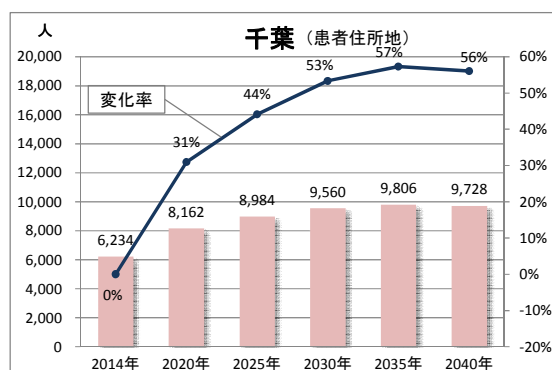


## 1. 人口の推移

- ◆総人口は、2020年をピークにその後減少。
- ◆若年層(0~14歳、15~39歳)は一貫して減少。2040年には2014年時点と比較して0~14歳は33%減、15~39歳は26%減。
- ◆40~64歳は2025年まで大きな増減はなく、その後減少し2040年には21%減。
- ◆65~74歳は、2030年から増加が見られ、2040年には13%増。
- ◆75歳以上は2025年には倍増し、その後は横ばいとなる。

## 2. 入院患者数

- ◆1日あたり入院患者数は、2035年をピークとして9,806人と推計。2014年の同患者数の57%増。
- ◆一般に、高齢の入院患者に多い、「呼吸器系の疾患」、「内分泌、栄養及び代謝疾患」、「循環器系の疾患」が大きく増加。



2035年疾患別 対2014年入院患者増加率(患者住所地 千葉)

呼吸器系の疾患	126%	血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	45%
損傷、中毒及びその他の外因の影響	105%	眼及び付属器の疾患	38%
内分泌、栄養及び代謝疾患	89%	新生物	34%
循環器系の疾患	85%	感染症及び寄生虫症	27%
泌尿路生殖器系の疾患	68%	精神及び行動の障害	18%
消化器系の疾患	53%	耳及び乳様突起の疾患	-
皮膚及び皮下組織の疾患	49%	妊娠、分娩及び産じょく	-22%
筋骨格系及び結合組織の疾患	47%	先天奇形、変形及び染色体異常	-27%
神経系の疾患	46%	周産期に発生した病態	-28%

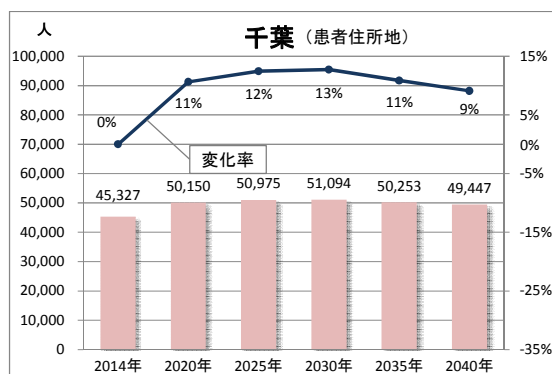
千葉保健医療圏の医療機関の入院患者住所地	
患者住所	構成比
千葉	62.9%
東葛南部	7.4%
東葛北部	1.0%
印旛	6.7%
香取海匝	1.2%
山武長生夷隅	6.9%
安房	0.3%
君津	1.7%
市原	4.8%
県外	7.1%
合計	100.0%
医療圏外計	37.1%

千葉保健医療圏の住民が入院する医療機関所在地	
医療機関所在地	構成比
千葉	74.7%
東葛南部	9.8%
東葛北部	0.8%
印旛	4.8%
香取海匝	0.3%
山武長生夷隅	1.6%
安房	0.3%
君津	0.7%
市原	2.1%
県外	4.9%
合計	100.0%
医療圏外計	25.3%

- ◆ 出産年齢人口が減少することから、「周産期に発生した病態」、「先天奇形、変形、染色体異常」、「妊娠、分娩及び産じょく」の患者数は減少。
- ◆ 千葉保健医療圏の医療機関の入院患者のうち、同医療圏以外の住民は 37.1%。
- ◆ 千葉保健医療圏の住民が入院する医療機関の所在地は、同医療圏以外が 25.3%。

### 3. 外来患者数(往診・訪問診療含む)

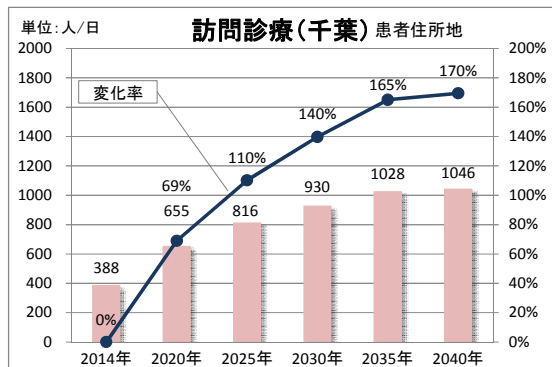
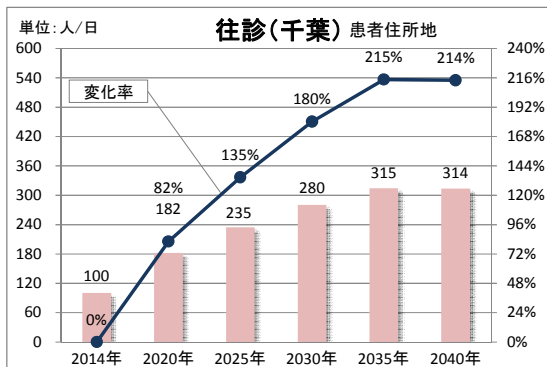
- ◆ 1日あたり外来患者数(往診・訪問診療含む)は、2030 年をピークとして 51,094 人と推計。2014 年の同患者数の 13%増。
- ◆ 一般的に、高齢外来患者に多い、「循環器系の疾患」、「筋骨格系及び結合組織の疾患」、「内分泌、栄養及び代謝疾患」が大きく増加。



- ◆ 出産年齢人口が減少することから、「妊娠、分娩及び産じょく」の患者数の減少幅が大きい。
- ◆ 高齢者人口の増加により、2035 年における往診を必要とする患者数は対 2014 年比約 215%増、訪問診療を必要とする患者数は、約 165%増になることが見込まれる。

2035年疾患別 対2014年外来患者増加率(患者住所地 千葉)

循環器系の疾患	31%	血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	8%
筋骨格系及び結合組織の疾患	24%	皮膚及び皮下組織の疾患	4%
内分泌、栄養及び代謝疾患	17%	耳及び乳様突起の疾患	2%
新生物	16%	先天奇形、変形及び染色体異常	2%
眼及び付属器の疾患	15%	感染症及び寄生虫症	-2%
消化器系の疾患	13%	精神及び行動の障害	-6%
神経系の疾患	12%	呼吸器系の疾患	-9%
損傷、中毒及びその他の外因の影響	10%	妊娠、分娩及び産じょく	-25%
泌尿路生殖器系の疾患	9%	周産期に発生した病態	-



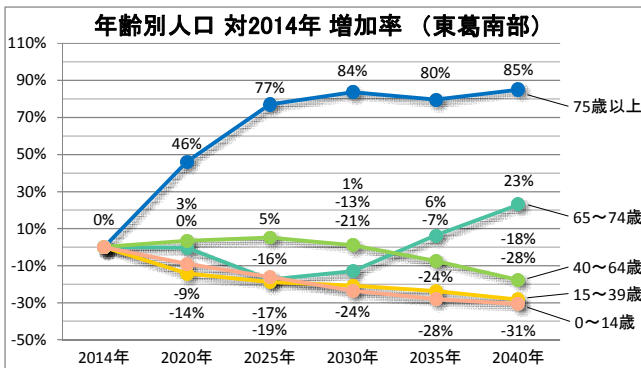
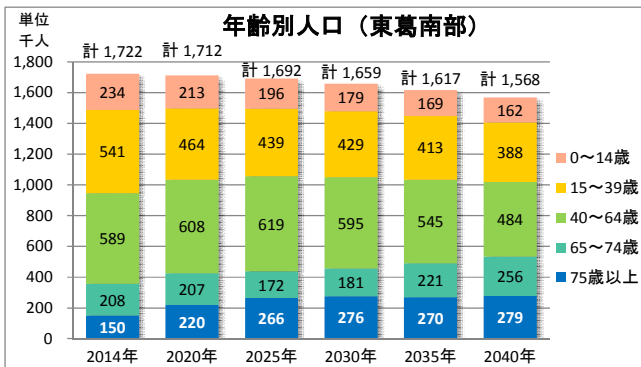
※ 各表中のパーセンテージの欄が「-」となっているところは、患者数が 10 人未満。

# 東葛南部保健医療圏

2014 年以降、総人口は一貫して減少することが見込まれる。64 歳以下が減少する一方で、75 歳以上の人口は増加。この人口構成の影響を受けて、入院患者数は一貫して増加し 2040 年に 54% 増、外来患者は 2030 年のピークで 12% 増。高齢患者の増加から 2035 年時点で、入院では「呼吸器系の疾患」「循環器系の疾患」、外来は「循環器系の疾患」、「筋骨格系及び結合組織の疾患」、「内分泌、栄養及び代謝疾患」が大きく増加することが見込まれる。



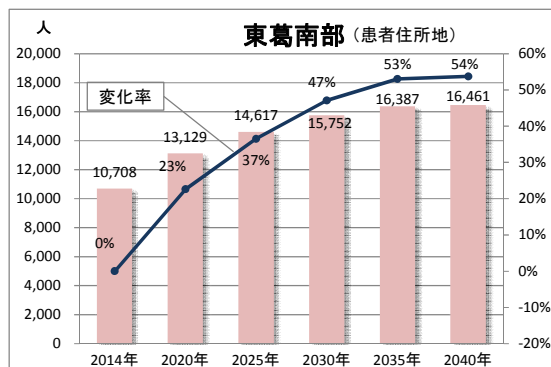
## 1. 人口の推移



- ◆総人口は、一貫して減少。
- ◆若年層(0~14歳、15~39歳)は、2040年に2014年時点の約3割減。
- ◆40~64歳は2030年から減少に転じ、2040年に約2割減。
- ◆65~74歳は、2025年の17%減から増加しはじめ、2040年時点で対2014年比23%増。
- ◆75歳以上は2025年からは、対2014年約8割増前後で横ばいとなる。

## 2. 入院患者数

- ◆1日あたり入院患者数は、一貫して増加し、2040年に16,461人と推計。2014年の同患者数の54%増。ただし、上昇率は次第に緩やかになる。
- ◆一般に、高齢の入院患者に多い、「呼吸器系の疾患」「循環器系の疾患」が大きく増加。



2035年疾患別 対2014年入院患者増加率(患者住所地 東葛南部)

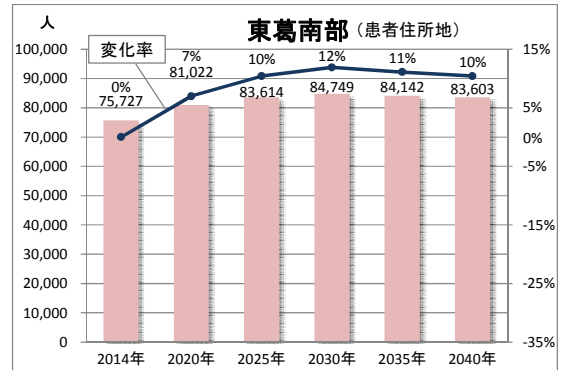
呼吸器系の疾患	104%	血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	47%
損傷、中毒及びその他の外因の影響	80%	皮膚及び皮下組織の疾患	38%
循環器系の疾患	78%	新生物	33%
消化器系の疾患	60%	眼及び付属器の疾患	27%
内分泌、栄養及び代謝疾患	58%	精神及び行動の障害	23%
腎尿路生殖器系の疾患	53%	耳及び乳様突起の疾患	12%
神経系の疾患	52%	先天奇形、変形及び染色体異常	-20%
筋骨格系及び結合組織の疾患	50%	妊娠、分娩及び産じょく	-28%
感染症及び寄生虫症	49%	周産期に発生した病態	-28%

東葛南部保健医療圏の医療機関の入院患者住所地		東葛南部保健医療圏の住民が入院する医療機関所在地	
患者住所	構成比	医療機関所在地	構成比
千葉	5.2%	千葉	5.1%
東葛南部	68.2%	東葛南部	75.2%
東葛北部	6.2%	東葛北部	4.8%
印旛	6.4%	印旛	4.0%
香取海匝	0.3%	香取海匝	0.3%
山武長生夷隅	0.4%	山武長生夷隅	0.3%
安房	-	安房	0.2%
君津	0.2%	君津	0.3%
市原	0.2%	市原	0.1%
県外	12.8%	県外	9.7%
合計	100.0%	合計	100.0%
医療圏外計	31.8%	医療圏外計	24.8%

- ◆ 出産年齢人口が減少することから、「周産期に発生した病態」、「妊娠、分娩及び産じょく」、「先天奇形、変形、染色体異常」の患者数は減少。
- ◆ 東葛南部保健医療圏の医療機関の入院患者のうち、同医療圏以外の住民は 31.8%。
- ◆ 東葛南部保健医療圏の住民が入院する医療機関の所在地は、同医療圏以外が 24.8%。

### 3. 外来患者数(往診・訪問診療含む)

- ◆ 1日あたり外来患者数(往診・訪問診療含む)は、2030年をピークとして 84,749 人と推計。2014年の同患者数の 12%増。
- ◆ 一般的に、高齢外来患者に多い、「循環器系の疾患」、「筋骨格系及び結合組織の疾患」、「内分



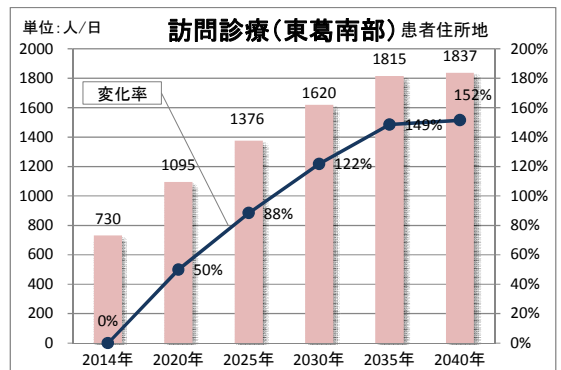
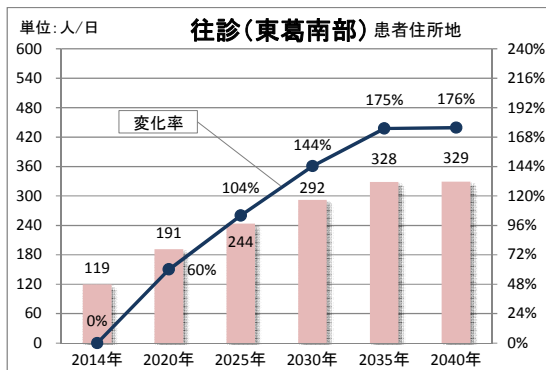
泌、栄養及び代謝疾患」が大きく増加。

- ◆ 出産年齢人口が減少することから、「妊娠、分娩及び産じょく」の患者数の減少幅が大きい。
- ◆ 高齢者人口の増加により、2040年における往診を必要とする患者数は、

2035年疾患別 対2014年外来患者増加率(患者住所地 東葛南部)

循環器系の疾患	31%	血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	7%
筋骨格系及び結合組織の疾患	22%	耳及び乳様突起の疾患	4%
内分泌、栄養及び代謝疾患	19%	先天奇形、変形及び染色体異常	3%
新生物	16%	皮膚及び皮下組織の疾患	2%
消化器系の疾患	15%	感染症及び寄生虫症	2%
眼及び付属器の疾患	14%	精神及び行動の障害	-8%
神経系の疾患	12%	呼吸器系の疾患	-8%
腎尿路生殖器系の疾患	11%	妊娠、分娩及び産じょく	-18%
損傷、中毒及びその他の外因の影響	8%	周産期に発生した病態	-

対 2014 年比約 176%増、訪問診療を必要とする患者数は約 152%増になることが見込まれる。



※ 各表中のパーセンテージの欄が「-」となっているところは、患者数が10人未満。

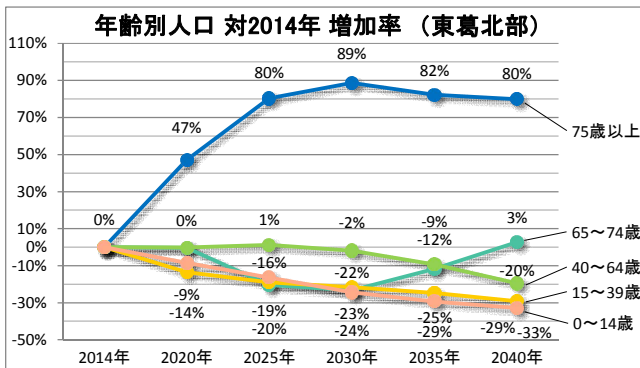
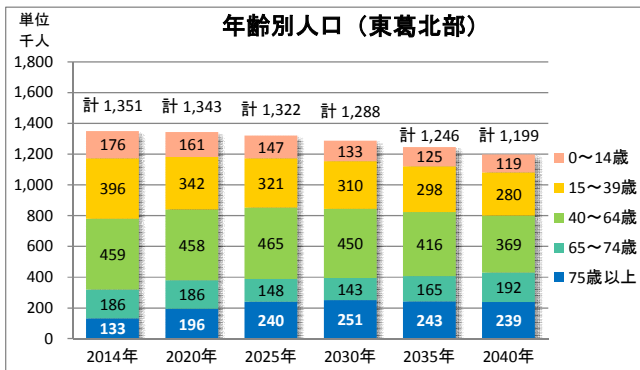
# 東葛北部保健医療圏

2014 年以降、総人口は一貫して減少することが見込まれる。64 歳以下が減少する一方で、75 歳以上の人口は増加。この人口構成の影響を受けて、入院患者数は 2035 年、外来患者は 2025 年をピークにそれぞれ、47% 増、7% 増。高齢患者の増加から 2035 年時点で、入院では「呼吸器系の疾患」、「循環器系の疾患」、外来は「循環器系の疾患」、「筋骨格系及び結合組織の疾患」が大きく増加することが見込まれる。



松戸市  
野田市  
柏市  
流山市  
我孫子市

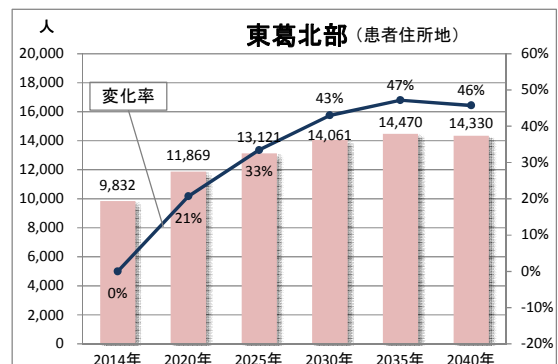
## 1. 人口の推移



- ◆ 総人口は、一貫して減少。
- ◆ 若年層(0~14歳、15~39歳)は、2040年に2014年時点の約3割減。
- ◆ 40~64歳は2030年から減少に転じ、2040年に約2割減。
- ◆ 65~74歳は、2030年の23%減から増加しはじめ、2040年時点で対2014年比3%増。
- ◆ 75歳以上は2030年に対2014年89%増でピークを迎え、その後は約8割増前後で推移する。

## 2. 入院患者数

- ◆ 1日あたり入院患者数は、2035年をピークとして14,470人と推計。2014年の同患者数の47%増。
- ◆ 一般に、高齢の入院患者に多い、「呼吸器系の疾患」、「循環器系の疾患」が大きく増加。



2035年疾患別 対2014年入院患者増加率(患者住所地 東葛北部)

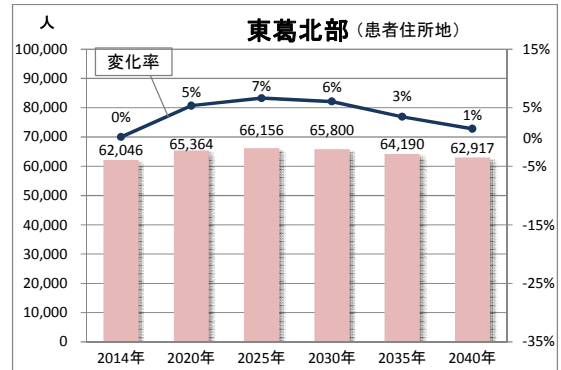
呼吸器系の疾患	101%	筋骨格系及び結合組織の疾患	38%
損傷、中毒及びその他の外因の影響	76%	血液及び造血系の疾患並びに免疫機構の障害	33%
循環器系の疾患	67%	神経系の疾患	29%
泌尿路生殖器系の疾患	63%	新生物	27%
内分泌、栄養及び代謝疾患	58%	精神及び行動の障害	18%
皮膚及び皮下組織の疾患	55%	眼及び付属器の疾患	12%
感染症及び寄生虫症	47%	先天奇形、変形及び染色体異常	-28%
消化器系の疾患	46%	妊娠、分娩及び産じょく	-29%
耳及び乳様突起の疾患	45%	周産期に発生した病態	-32%

東葛北部保健医療圏の医療機関の入院患者住所地		東葛北部保健医療圏の住民が入院する医療機関所在地	
患者住所	構成比	医療機関所在地	構成比
千葉	0.5%	千葉	0.7%
東葛南部	5.3%	東葛南部	7.5%
東葛北部	74.9%	東葛北部	74.6%
印旛	1.8%	印旛	1.5%
香取海匝	0.2%	香取海匝	0.1%
山武長生夷隅	0.1%	山武長生夷隅	0.1%
安房	-	安房	0.1%
君津	-	君津	0.2%
市原	-	市原	-
県外	17.2%	県外	15.1%
合計	100.0%	合計	100.0%
医療圏外計	25.1%	医療圏外計	25.4%

- ◆ 出産年齢人口が減少することから、「周産期に発生した病態」、「妊娠、分娩及び産じょく」、「先天奇形、変形、染色体異常」の患者数は減少。
- ◆ 東葛北部保健医療圏の医療機関の入院患者のうち、同医療圏以外の住民は 25.1%。
- ◆ 東葛北部保健医療圏の住民が入院する医療機関の所在地は、同医療圏以外が 25.4%。

### 3. 外来患者数(往診・訪問診療含む)

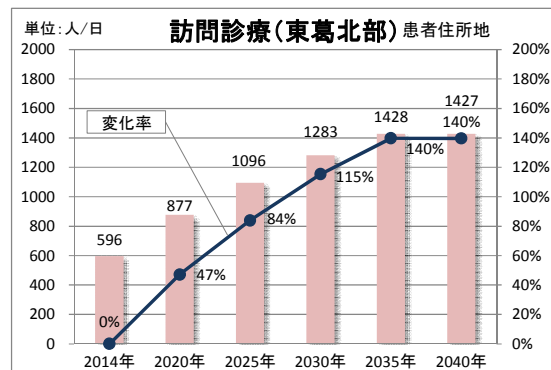
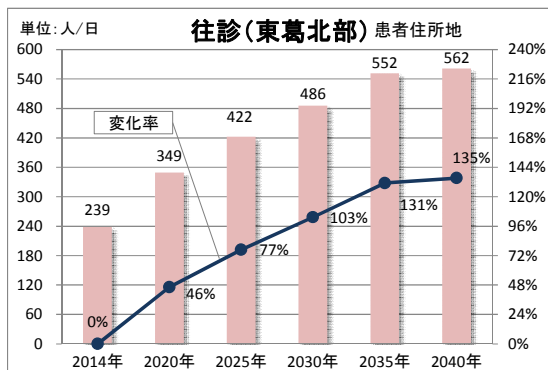
- ◆ 1日あたり外来患者数(往診・訪問診療含む)は、2025 年をピークとして 66,156 人と推計。2014 年の同患者数の 7%増。
- ◆ 一般的に、高齢外来患者に多い、「循環器系の疾患」、「筋骨格系及び結合組織の疾患」が大きく増加。



- ◆ 出産年齢人口が減少することから、「妊娠、分娩及び産じょく」、「周産期に発生した病態」の患者数の減少幅が大きい。
- ◆ 高齢者人口の増加により、2040 年における往診を必要とする患者数は対 2014 年比 135%増、訪問診療を必要とする患者数は 140%増になることが見込まれる。

2035年疾患別 対2014年外来患者増加率(患者住所地 東葛北部)

循環器系の疾患	22%	泌尿路生殖器系の疾患	3%
筋骨格系及び結合組織の疾患	13%	皮膚及び皮下組織の疾患	-2%
眼及び付属器の疾患	8%	耳及び乳様突起の疾患	-3%
新生物	7%	感染症及び寄生虫症	-3%
血液及び造血系の疾患並びに免疫機構の障害	7%	先天奇形、変形及び染色体異常	-7%
内分泌、栄養及び代謝疾患	6%	精神及び行動の障害	-12%
消化器系の疾患	6%	呼吸器系の疾患	-13%
損傷、中毒及びその他の外因の影響	4%	周産期に発生した病態	-21%
神経系の疾患	3%	妊娠、分娩及び産じょく	-32%



※ 各表中のパーセンテージの欄が「-」となっているところは、患者数が 10 人未満。

# 印旛保健医療圏

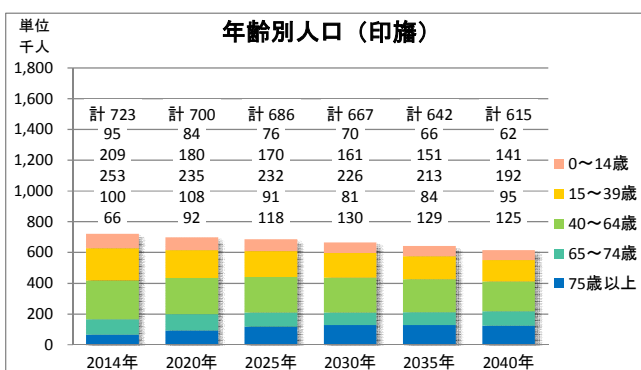
2014 年以降、総人口は一貫して減少することが見込まれる。64 歳以下が減少する一方で、75 歳以上の人口は増加。この人口構成の影響を受けて、入院患者数は2035 年、外来患者は2025 年をピークにそれぞれ、42%増、3%増。高齢患者の増加から 2035 年時点で、入院では「呼吸器系の疾患」、「循環器系の疾患」、外来は「循環器系の疾患」、「筋骨格系及び結合組織の疾患」が大きく増加することが見込まれる。



成田市  
佐倉市  
四街道市  
八街市  
印西市  
白井市  
富里市  
印旛郡  
酒々井町  
栄町

## 1. 人口の推移

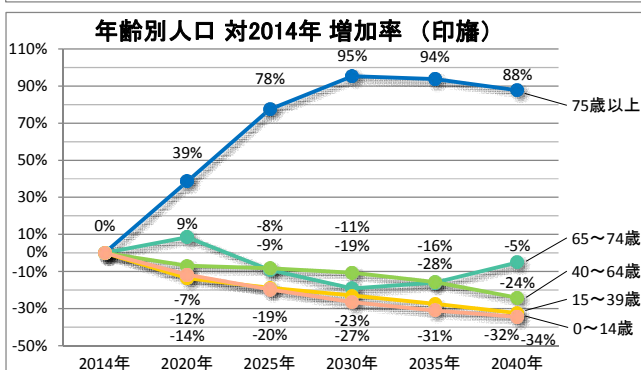
◆総人口は、一貫して減少。



◆若年層(0~14 歳、15~39 歳)は、2040 年に2014 年時点の約 3 割減。40~64 歳は 24% 減。

◆65~74 歳は、2030 年の 19% 減から減少率は低下しはじめ、2040 年時点で対 2014 年比 5% 減。

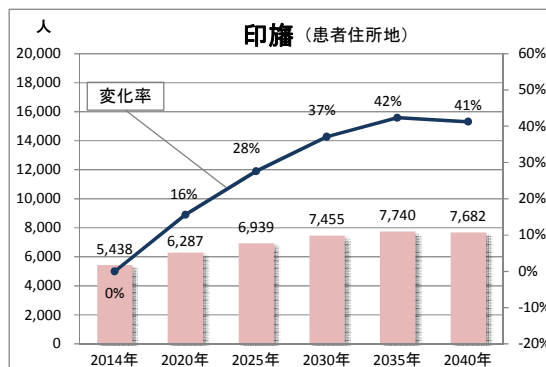
◆75 歳以上は 2030 年に対 2014 年 95% 増でピークを迎える。



## 2. 入院患者数

◆1日あたり入院患者数は、2035 年をピークとして7,740 人と推計。2014 年の同患者数の 42% 増。

◆一般に、高齢の入院患者に多い、「呼吸器系の疾患」、「循環器系の疾患」が大きく増加。





2035年疾患別 対2014年入院患者増加率(患者住所地 印旛)

呼吸器系の疾患	82%	感染症及び寄生虫症	36%
循環器系の疾患	67%	血液及び造血系の疾患並びに免疫機構の障害	31%
皮膚及び皮下組織の疾患	66%	神経系の疾患	28%
泌尿路生殖器系の疾患	60%	新生物	22%
損傷、中毒及びその他の外因の影響	57%	精神及び行動の障害	15%
消化器系の疾患	56%	耳及び乳様突起の疾患	9%
内分泌、栄養及び代謝疾患	53%	先天奇形、変形及び染色体異常	-25%
眼及び付属器の疾患	46%	周産期に発生した病態	-30%
筋骨格系及び結合組織の疾患	37%	妊娠、分娩及び産じょく	-31%

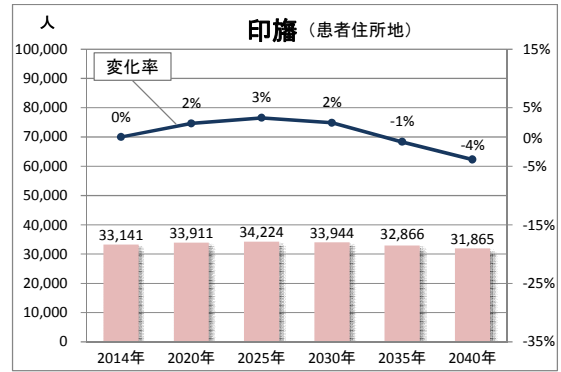
患者住所	構成比
千葉	5.4%
東葛南部	7.7%
東葛北部	2.7%
印旛	63.1%
香取海匠	6.7%
山武長生夷隅	3.9%
安房	-
君津	0.3%
市原	0.5%
県外	9.6%
合計	100.0%
医療圏外計	36.9%

医療機関所在地	構成比
千葉	9.2%
東葛南部	14.0%
東葛北部	3.2%
印旛	64.3%
香取海匠	1.3%
山武長生夷隅	2.5%
安房	0.2%
君津	-
市原	0.2%
県外	5.1%
合計	100.0%
医療圏外計	35.7%

- ◆ 出産年齢人口が減少することから、「妊娠、分娩及び産じょく」、「周産期に発生した病態」、「先天奇形、変形、染色体異常」の患者数は減少。
- ◆ 印旛保健医療圏の医療機関の入院患者のうち、同医療圏以外の住民は 36.9%。
- ◆ 印旛保健医療圏の住民が入院する医療機関の所在地は、同医療圏以外が 35.7%。

### 3. 外来患者数(往診・訪問診療含む)

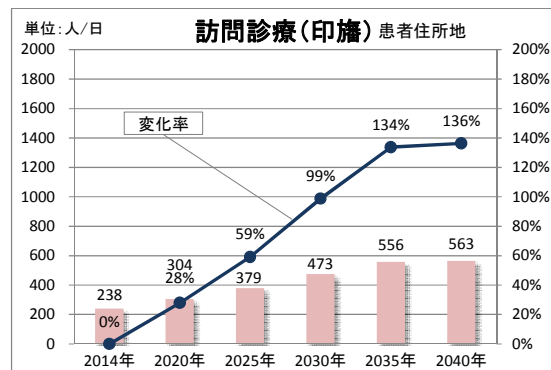
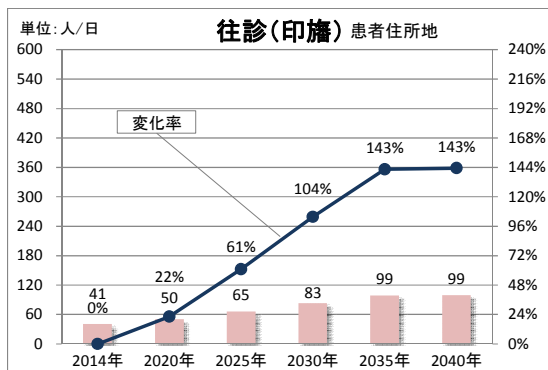
- ◆ 1日あたり外来患者数(往診・訪問診療含む)は、2025 年をピークとして 34,224 人と推計。2014 年の同患者数の 3%増。
- ◆ 一般的に、高齢外来患者に多い、「循環器系の疾患」、「筋骨格系及び結合組織の疾患」が増加。



2035年疾患別 対2014年外来患者増加率(患者住所地 印旛)

循環器系の疾患	18%	神経系の疾患	-4%
筋骨格系及び結合組織の疾患	10%	皮膚及び皮下組織の疾患	-8%
眼及び付属器の疾患	4%	感染症及び寄生虫症	-10%
消化器系の疾患	3%	精神及び行動の障害	-11%
内分泌、栄養及び代謝疾患	1%	耳及び乳様突起の疾患	-11%
血液及び造血系の疾患並びに免疫機構の障害	1%	呼吸器系の疾患	-18%
泌尿路生殖器系の疾患	-2%	先天奇形、変形及び染色体異常	-20%
損傷、中毒及びその他の外因の影響	-2%	妊娠、分娩及び産じょく	-28%
新生物	-3%	周産期に発生した病態	-

- ◆ 出産年齢人口が減少することから、「妊娠、分娩及び産じょく」の患者数の減少幅が大きい。
- ◆ 高齢者人口の増加により、2040 年における往診を必要とする患者数は対2014 年比 143%増、訪問診療を必要とする患者数は 136%増になることが見込まれる。



※ 各表中のパーセンテージの欄が「-」となっているところは、患者数が10人未満。

# 香取海匠保健医療圏

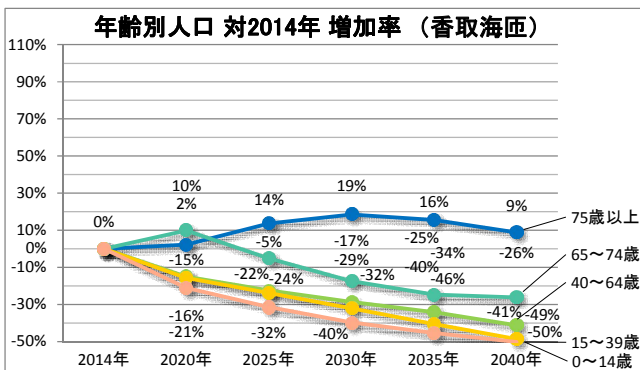
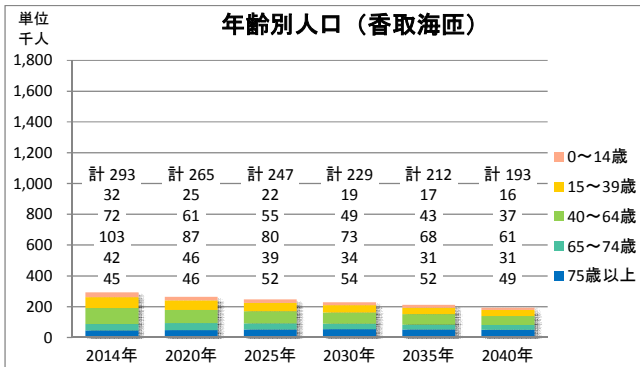
2014 年以降、総人口は一貫して減少することが見込まれる。若年人口は一貫して減少し、75 歳以上の人口は 2030 年に 19%増まで増加するが、その後減少に転じる。

この人口構成の影響を受けて、2040 年には対 2014 年比で入院患者数が 11%減、外来患者が 31%減。入院患者は高齢患者の増加から 2035 年時点で、「呼吸器系の疾患」、「循環器系の疾患」が増加、外来はすべての傷病分類において減少が見込まれる。



- 銚子市
- 旭市
- 匝瑳市
- 香取市
- 香取郡
- 神崎町
- 多古町
- 東庄町

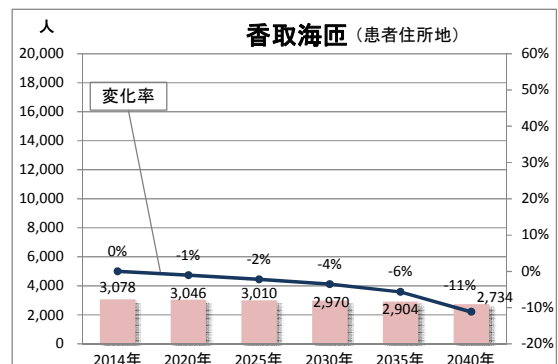
## 1. 人口の推移



- ◆総人口は、一貫して減少。
- ◆若年層(0~14歳、15~39歳)は、2040年に2014年時点の約5割減。40~64歳は4割減。
- ◆65~74歳は、2020年の10%増から下降をはじめ、2040年時点で対2014年比26%減。
- ◆75歳以上は2030年に対2014年19%増でピークを迎え、2040年の9%増まで下降。

## 2. 入院患者数

- ◆1日あたり入院患者数は、一貫して減少。2040年には2,734人で、2014年の同患者数の11%減と推計。
- ◆一般に、高齢の入院患者に多い、「呼吸器系の疾患」、「循環器系の疾患」が大きく増加。



2035年疾患別 対2014年入院患者増加率(患者住所地 香取海匠)

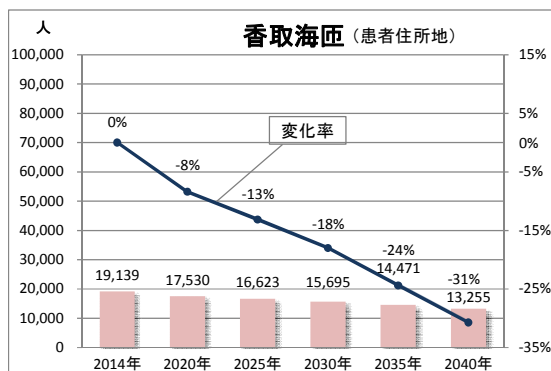
呼吸器系の疾患	12%	感染症及び寄生虫症	-9%
循環器系の疾患	7%	血液及び造血系の疾患並びに免疫機構の障害	-9%
耳及び乳様突起の疾患	-	新生物	-9%
損傷、中毒及びその他の外因の影響	1%	皮膚及び皮下組織の疾患	-12%
消化器系の疾患	0%	眼及び付属器の疾患	-16%
腎尿路生殖器系の疾患	-5%	精神及び行動の障害	-18%
内分泌、栄養及び代謝疾患	-5%	周産期に発生した病態	-38%
筋骨格系及び結合組織の疾患	-6%	妊娠、分娩及び産じょく	-38%
神経系の疾患	-6%	先天奇形、変形及び染色体異常	-

香取海匠保健医療圏の医療機関の入院患者住所地		香取海匠保健医療圏の住民が入院する医療機関所在地	
患者住所	構成比	医療機関所在地	構成比
千葉	0.7%	千葉	3.0%
東葛南部	1.0%	東葛南部	1.0%
東葛北部	0.5%	東葛北部	0.5%
印旛	2.4%	印旛	12.1%
香取海匠	76.3%	香取海匠	70.9%
山武長生夷隅	7.1%	山武長生夷隅	1.9%
安房	-	安房	-
君津	-	君津	-
市原	-	市原	-
県外	11.7%	県外	10.3%
合計	100.0%	合計	100.0%
医療圏外計	23.7%	医療圏外計	29.1%

- ◆ 出産年齢人口が減少することから、「妊娠、分娩及び産じょく」、「周産期に発生した病態」の患者数は大きく減少。
- ◆ 香取海匠保健医療圏の医療機関の入院患者のうち、同医療圏以外の住民は 23.7%。
- ◆ 香取海匠保健医療圏の住民が入院する医療機関の所在地は、同医療圏以外が 29.1%。

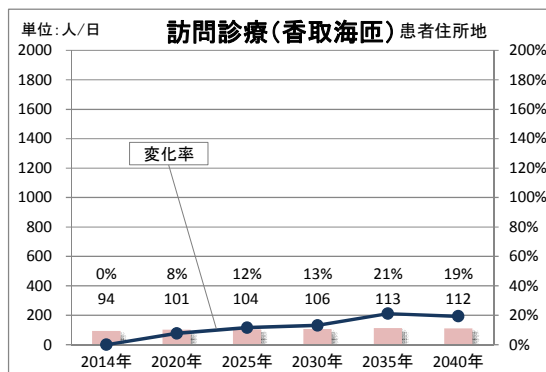
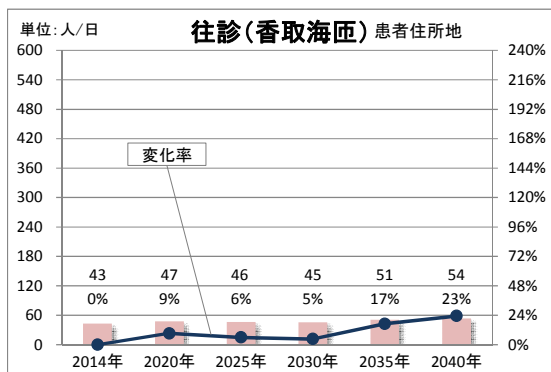
### 3. 外来患者数(往診・訪問診療含む)

- ◆ 1日あたり外来患者数(往診・訪問診療含む)は、一貫して減少。2040年には13,255人で、2014年の同患者数の31%減と推計。
- ◆ 総人口の減少に加え、75歳以上の人口増加率が他の二次医療圏と比べて小さいため、全ての傷病分類で減少。



2035年疾患別 対2014年外来患者増加率(患者住所地 香取海匠)

循環器系の疾患	-17%	損傷、中毒及びその他の外因の影響	-27%
筋骨格系及び結合組織の疾患	-18%	血液及び造血系の疾患並びに免疫機構の障害	-29%
神経系の疾患	-20%	感染症及び寄生虫症	-29%
眼及び付属器の疾患	-21%	皮膚及び皮下組織の疾患	-30%
消化器系の疾患	-22%	耳及び乳様突起の疾患	-32%
新生物	-22%	精神及び行動の障害	-32%
腎尿路生殖器系の疾患	-23%	周産期に発生した病態	-34%
内分泌、栄養及び代謝疾患	-24%	呼吸器系の疾患	-36%
先天奇形、変形及び染色体異常	-27%	妊娠、分娩及び産じょく	-37%

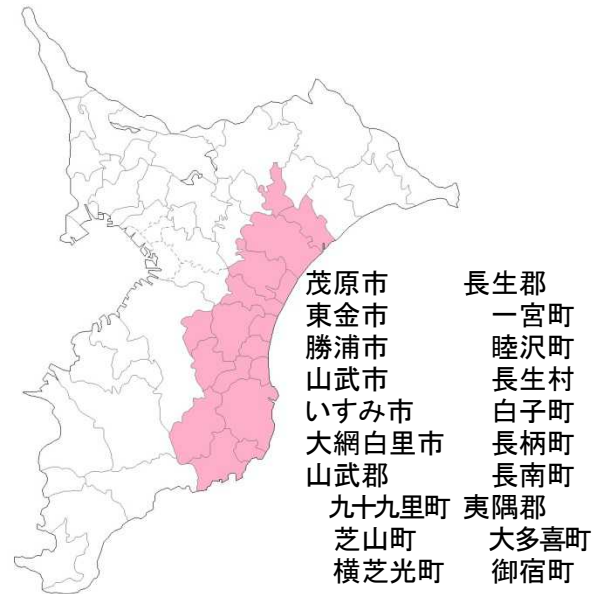


※ 各表中のパーセンテージの欄が「-」となっているところは、患者数が10人未満。

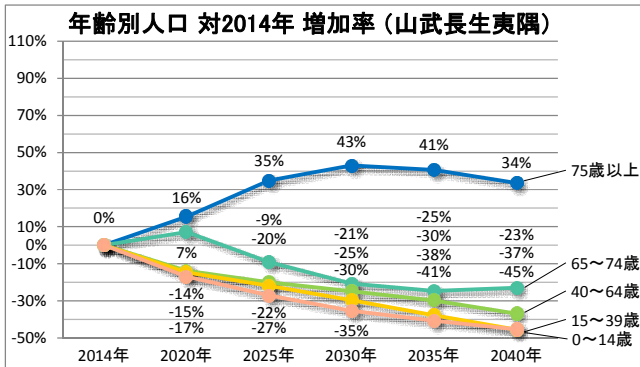
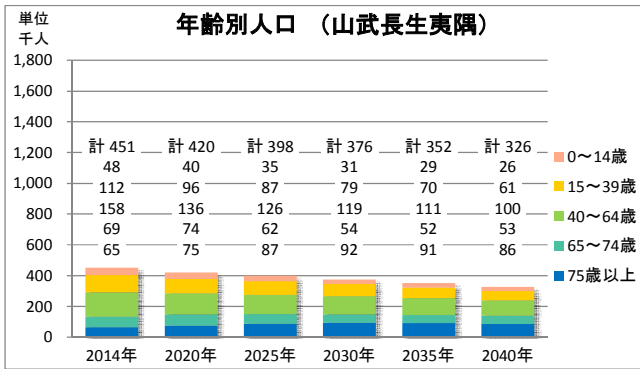
# 山武長生夷隅保健医療圏

2014年以降、総人口は一貫して減少することが見込まれる。若年人口は一貫して減少し、75歳以上の人口は2030年43%増をピークとして、その後減少に転じる。

入院患者は2035年にピークとなり、12%増。高齢者人口の影響を受けて、「呼吸器系の疾患」、「循環器系の疾患」が大きく増加する。外来患者は、一貫して減少し、2040年には22%減。



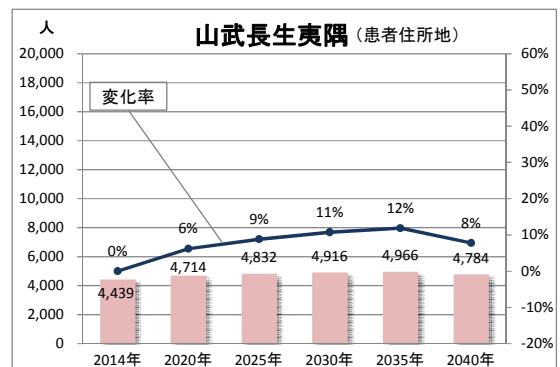
## 1. 人口の推移



- ◆総人口は、一貫して減少。
- ◆0~14歳、15~39歳、40~64歳は、2040年に2014年時点の約4割減。
- ◆65~74歳は、2020年の7%増から下降をはじめ、2040年時点で対2014年比23%減。
- ◆75歳以上は2030年に対2014年43%増でピークを迎え、2040年の34%増まで下降。

## 2. 入院患者数

- ◆1日あたり入院患者数は、2035年をピークとして4,966人と推計。対2014年の同患者数の12%増。
- ◆一般に、高齢の入院患者に多い、「呼吸器系の疾患」、「循環器系の疾患」が大きく増加。



2035年疾患別 対2014年入院患者増加率(患者住所地 山武長生夷隅)

呼吸器系の疾患	42%	消化器系の疾患	7%
循環器系の疾患	34%	筋骨格系及び結合組織の疾患	3%
血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	28%	新生物	-3%
損傷、中毒及びその他の外因の影響	24%	眼及び付属器の疾患	-4%
腎尿路生殖器系の疾患	20%	精神及び行動の障害	-14%
感染症及び寄生虫症	18%	耳及び乳様突起の疾患	-
内分泌、栄養及び代謝疾患	16%	妊娠、分娩及び産じょく	-35%
神経系の疾患	14%	周産期に発生した病態	-37%
皮膚及び皮下組織の疾患	13%	先天奇形、変形及び染色体異常	-

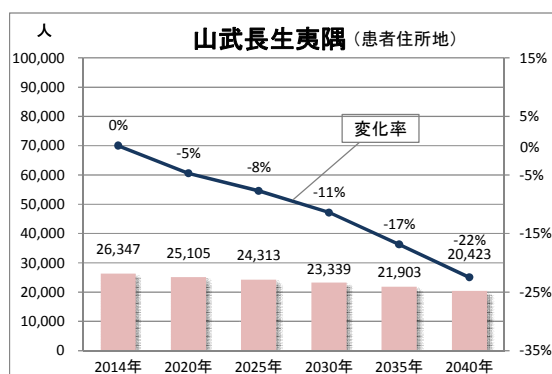
患者住所	構成比
千葉	3.0%
東葛南部	0.9%
東葛北部	0.3%
印旛	4.0%
香取海匝	1.8%
山武長生夷隅	83.1%
安房	0.4%
君津	0.5%
市原	2.5%
県外	3.4%
合計	100.0%
医療圏外計	16.9%

医療機関所在地	構成比
千葉	11.5%
東葛南部	1.1%
東葛北部	0.2%
印旛	4.8%
香取海匝	4.6%
山武長生夷隅	63.3%
安房	6.5%
君津	0.4%
市原	4.6%
県外	2.9%
合計	100.0%
医療圏外計	36.7%

- ◆ 出産年齢人口が減少することから、「周産期に発生した病態」、「妊娠、分娩及び産じょく」の患者数は大きく減少。
- ◆ 山武長生夷隅保健医療圏の医療機関の入院患者のうち、同医療圏以外の住民は16.9%。
- ◆ 山武長生夷隅保健医療圏の住民が入院する医療機関の所在地は、同医療圏以外が36.7%。

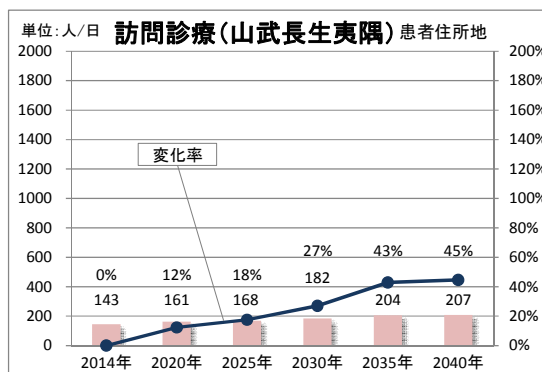
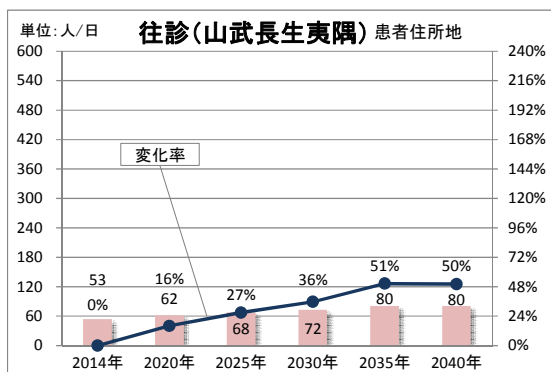
### 3. 外来患者数(往診・訪問診療含む)

- ◆ 1日あたり外来患者数(往診・訪問診療含む)は、一貫して減少。2040年には20,423人で、2014年の同患者数の22%減と推計。
- ◆ すべての傷病分類に減少が見られる。



2035年疾患別 対2014年外来患者増加率(患者住所地 山武長生夷隅)

循環器系の疾患	-6%	損傷、中毒及びその他の外因の影響	-20%
筋骨格系及び結合組織の疾患	-10%	皮膚及び皮下組織の疾患	-22%
血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	-11%	先天奇形、変形及び染色体異常	-22%
眼及び付属器の疾患	-11%	耳及び乳様突起の疾患	-23%
消化器系の疾患	-11%	感染症及び寄生虫症	-24%
新生物	-16%	精神及び行動の障害	-27%
神経系の疾患	-16%	呼吸器系の疾患	-29%
腎尿路生殖器系の疾患	-17%	周産期に発生した病態	-
内分泌、栄養及び代謝疾患	-18%	妊娠、分娩及び産じょく	-42%

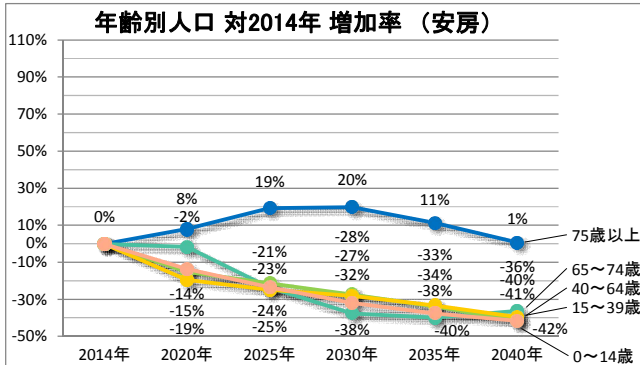
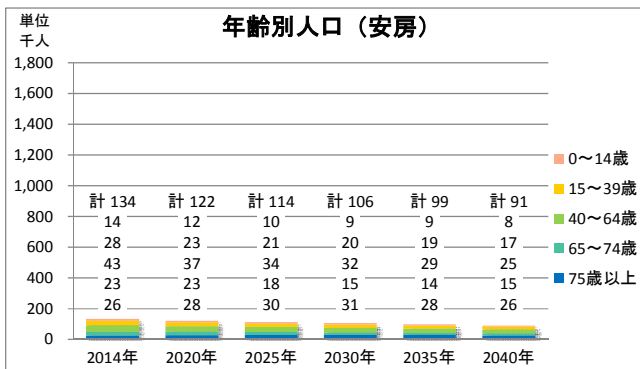


※ 各表中のパーセンテージの欄が「-」となっているところは、患者数が10人未満。

# 安房保健医療圏

2014 年以降、総人口は一貫して減少することが見込まれる。若年人口は一貫して減少し、75 歳以上の人口は 2030 年 20%増まで増加するが、その後減少に転じる。

この人口構成の影響を受けて、2040 年には対 2014 年比で入院患者数が 11%減、外来患者が 30%減。入院患者は高齢患者の増加から 2035 年時点で、「呼吸器系の疾患」、「循環器系の疾患」が特に増加、外来はすべての傷病分類において減少が見込まれる。

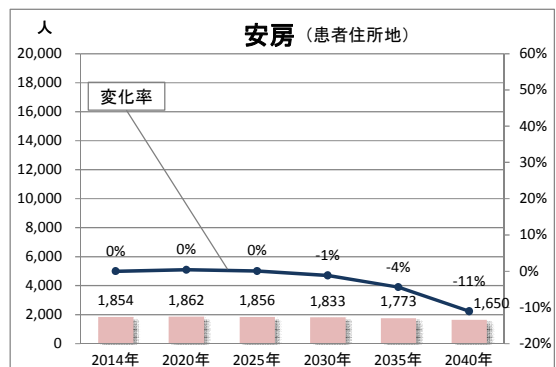


## 1. 人口の推移

- ◆ 総人口は、一貫して減少。
- ◆ 0~14 歳、15~39 歳、40~64 歳、65~74 歳は、2040 年に 2014 年時点の約 4 割減。
- ◆ 75 歳以上は 2030 年に対 2014 年 20%増でピークを迎え、2040 年の 1%増まで下降。

## 2. 入院患者数

- ◆ 1日あたり入院患者数は、2020 年の 1,862 人をピークとして減少。減少幅は次第に大きくなる。2040 年には 1,650 人で、2014 年の同患者数の 11%減と推計。
- ◆ 一般に、高齢の入院患者に多い、「呼吸器系の疾患」、「循環器系の疾患」が増加。



2025年疾患別 対2014年入院患者増加率(患者住所地 安房)

耳及び乳様突起の疾患	-	消化器系の疾患	-5%
血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	-	皮膚及び皮下組織の疾患	-8%
呼吸器系の疾患	22%	新生物	-14%
循環器系の疾患	9%	神経系の疾患	-15%
感染症及び寄生虫症	6%	精神及び行動の障害	-17%
損傷、中毒及びその他の外因の影響	3%	眼及び付属器の疾患	-26%
筋骨格系及び結合組織の疾患	-1%	先天奇形、変形及び染色体異常	-
腎尿路生殖器系の疾患	-2%	妊娠、分娩及び産じょく	-
内分泌、栄養及び代謝疾患	-3%	周産期に発生した病態	-

患者住所	構成比
千葉	0.9%
東葛南部	0.9%
東葛北部	0.4%
印旛	0.4%
香取海匝	-
山武長生夷隅	11.7%
安房	69.4%
君津	8.3%
市原	0.7%
県外	6.9%
合計	100.0%
医療圏外計	30.6%

医療機関所在地	構成比
千葉	1.0%
東葛南部	-
東葛北部	-
印旛	-
香取海匝	-
山武長生夷隅	0.8%
安房	92.0%
君津	1.3%
市原	0.6%
県外	3.4%
合計	100.0%
医療圏外計	8.0%

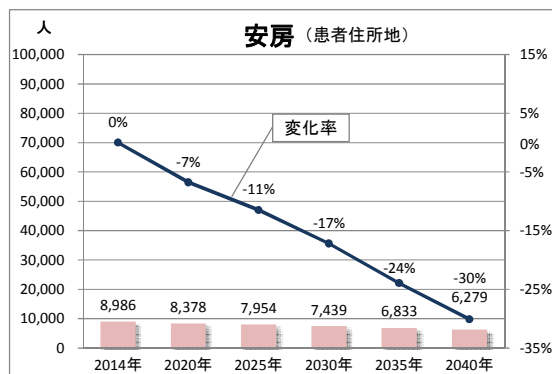
◆安房保健医療圏の医療機関の入院患者のうち、同医療圏以外の住民は 30.6%。

◆安房保健医療圏の住民が入院する医療機関の所在地は、同医療圏以外が 8.0%。

### 3. 外来患者数(往診・訪問診療含む)

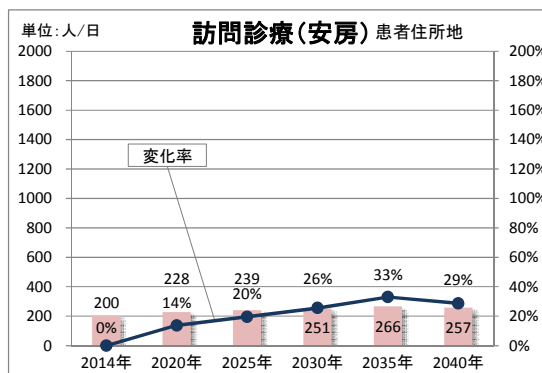
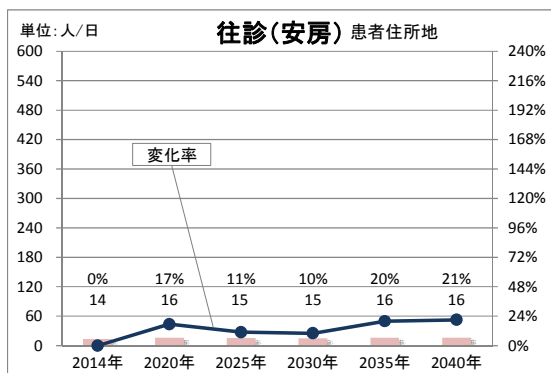
◆1日あたり外来患者数(往診・訪問診療含む)は、一貫して減少。2040年には6,279人で、2014年の同患者数の30%減と推計。

◆すべての傷病分類に減少が見られる。



2025年疾患別 対2014年外来患者増加率(患者住所地 安房)

先天奇形、変形及び染色体異常	-12%	内分泌、栄養及び代謝疾患	-26%
循環器系の疾患	-17%	新生物	-26%
血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	-19%	腎尿路生殖器系の疾患	-28%
皮膚及び皮下組織の疾患	-19%	呼吸器系の疾患	-28%
眼及び付属器の疾患	-21%	感染症及び寄生虫症	-29%
筋骨格系及び結合組織の疾患	-23%	耳及び乳様突起の疾患	-33%
神経系の疾患	-23%	精神及び行動の障害	-33%
消化器系の疾患	-25%	妊娠、分娩及び産じょく	-
損傷、中毒及びその他の外因の影響	-26%	周産期に発生した病態	-



※ 各表中のパーセンテージの欄が「-」となっているところは、患者数が10人未満。

## 君津保健医療圏

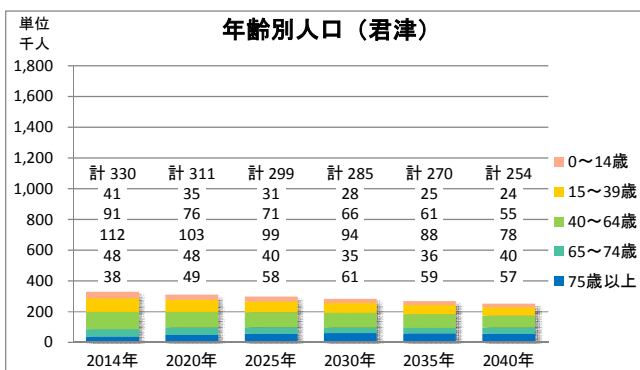
2014 年以降、総人口は一貫して減少することが見込まれる。若年人口は一貫して減少し、75 歳以上の人口は 2030 年 61%増をピークとして、その後減少に転じる。

入院患者は 2035 年に 25%増とピークとなり、「呼吸器系の疾患」、「循環器系の疾患」、「内分泌、栄養及び代謝疾患」が大きく増加する。外来患者は、総人口同様一貫して減少し、2040 年には 16%減。

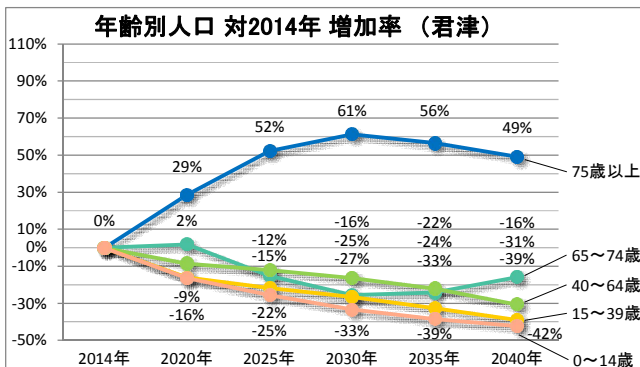


木更津市  
君津市  
富津市  
袖ヶ浦市

## 1. 人口の推移

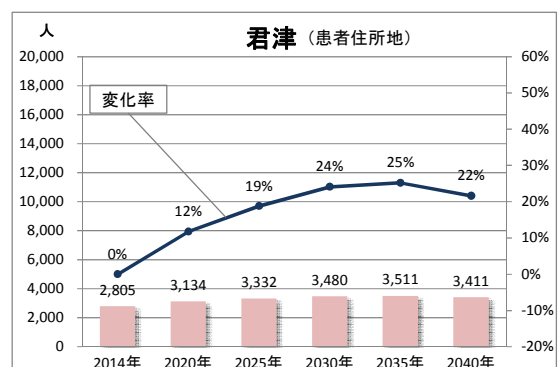


- ◆総人口は、一貫して減少。
- ◆0~14 歳、15~39 歳は、2040 年に 2014 年時点の約 4 割減。40~64 歳は、31%減。
- ◆65~74 歳は、2020 年の 2%増から下降をはじめ、2040 年時点対 2014 年比 16%減。
- ◆75 歳以上は 2030 年に対 2014 年 61%増でピークを迎え、2040 年の 49%増まで下降。



## 2. 入院患者数

- ◆1日あたり入院患者数は、2035 年をピークとして 3,511 人、対 2014 年の同患者数の 25%増と推計。
- ◆一般に、高齢の入院患者に多い、「呼吸器系の疾患」、「循環器系の疾患」「内分泌、栄養及び代謝疾患」が大きく増加。





2035年疾患別 対2014年入院患者増加率(患者住所地 君津)

血液及び造血管の疾患並びに免疫機構の障害	67%	損傷、中毒及びその他の外因の影響	24%
呼吸器系の疾患	65%	感染症及び寄生虫症	13%
循環器系の疾患	52%	眼及び付属器の疾患	11%
内分泌、栄養及び代謝疾患	50%	新生物	4%
皮膚及び皮下組織の疾患	33%	精神及び行動の障害	1%
消化器系の疾患	28%	耳及び乳様突起の疾患	-
泌尿路生殖器系の疾患	28%	妊娠、分娩及び産じょく	-33%
神経系の疾患	28%	周産期に発生した病態	-35%
筋骨格系及び結合組織の疾患	27%	先天奇形、変形及び染色体異常	-36%

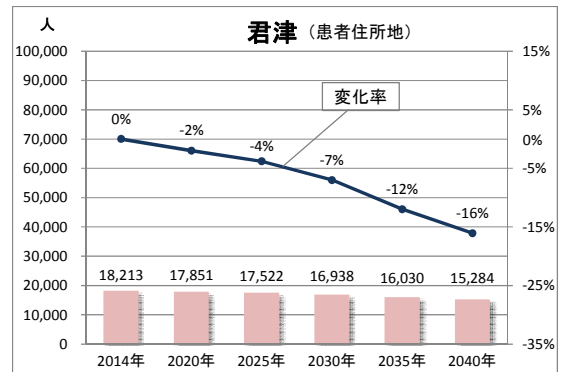
患者住所	構成比
千葉	1.6%
東葛南部	1.1%
東葛北部	0.6%
印旛	-
香取海匝	-
山武長生夷隅	0.6%
安房	0.9%
君津	85.2%
市原	4.5%
県外	5.3%
合計	100.0%
医療圏外計	14.8%

医療機関所在地	構成比
千葉	4.5%
東葛南部	0.8%
東葛北部	-
印旛	0.6%
香取海匝	-
山武長生夷隅	0.6%
安房	7.3%
君津	77.4%
市原	4.9%
県外	3.7%
合計	100.0%
医療圏外計	22.6%

- ◆ 出産年齢人口が減少することから、「先天奇形、変形、染色体異常」、「周産期に発生した病態」、「妊娠、分娩及び産じょく」の患者数は減少。
- ◆ 君津保健医療圏の医療機関の入院患者のうち、同医療圏以外の住民は 14.8%。
- ◆ 君津保健医療圏の住民が入院する医療機関の所在地は、同医療圏以外が 22.6%。

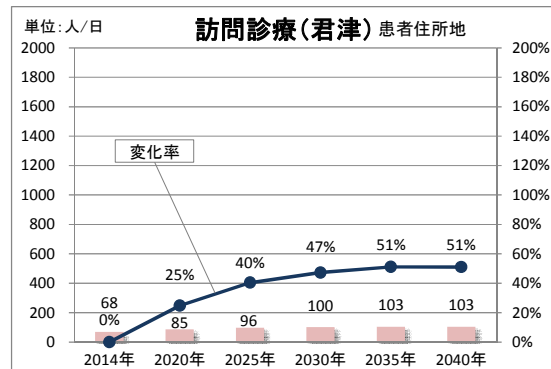
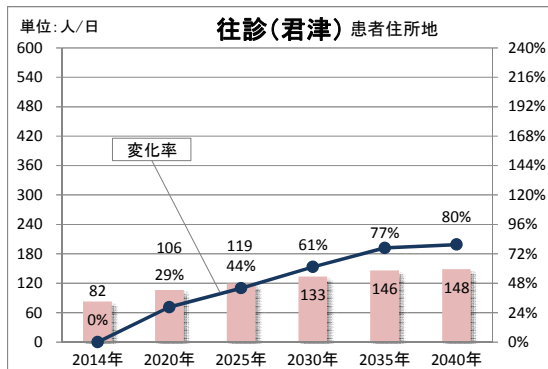
### 3. 外来患者数(往診・訪問診療含む)

- ◆ 1日あたり外来患者数(往診・訪問診療含む)は、一貫して減少。2040年には15,284人で、2014年の同患者数の16%減と推計。
- ◆ 一般的に、高齢外来者に多い「循環器系の疾患」が微増。



2035年疾患別 対2014年外来患者増加率(患者住所地 君津)

循環器系の疾患	5%	先天奇形、変形及び染色体異常	-14%
血液及び造血管の疾患並びに免疫機構の障害	3%	感染症及び寄生虫症	-18%
眼及び付属器の疾患	-7%	耳及び乳様突起の疾患	-18%
筋骨格系及び結合組織の疾患	-7%	損傷、中毒及びその他の外因の影響	-18%
消化器系の疾患	-8%	皮膚及び皮下組織の疾患	-19%
神経系の疾患	-9%	精神及び行動の障害	-23%
新生物	-11%	呼吸器系の疾患	-26%
内分泌、栄養及び代謝疾患	-12%	周産期に発生した病態	-
泌尿路生殖器系の疾患	-13%	妊娠、分娩及び産じょく	-34%



※ 各表中のパーセンテージの欄が「-」となっているところは、患者数が10人未満。

# 市原保健医療圏

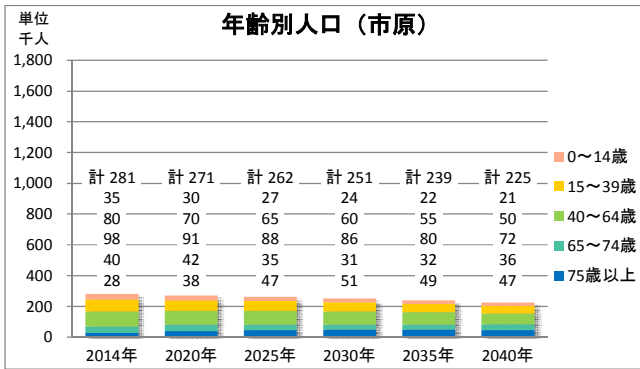
2014 年以降、総人口は一貫して減少することが見込まれる。若年人口は一貫して減少し、75 歳以上の人口は 2030 年 81%増をピークとして、その後減少に転じる。

入院患者は 2035 年 29%増でピークとなり、「呼吸器系の疾患」、「循環器系の疾患」が大きく増加する。外来患者は、一貫して減少し、2040 年には 13%減となるが、高齢者の増加から 2035 年時点で、「循環器系の疾患」は増加が見込まれる。



市原市

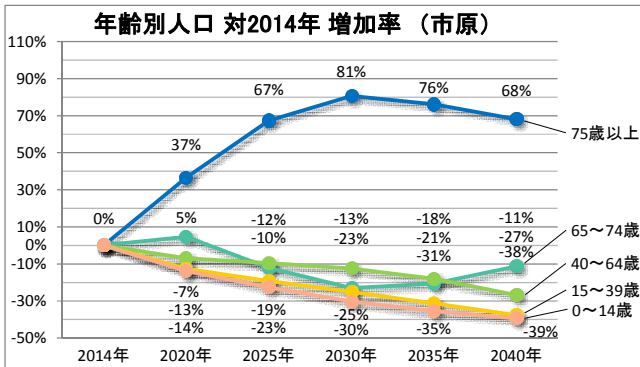
## 1. 人口の推移



◆総人口は、一貫して減少。

◆0~14 歳、15~39 歳は、2040 年に 2014 年時点の約 4 割減。40~64 歳は、27%減。

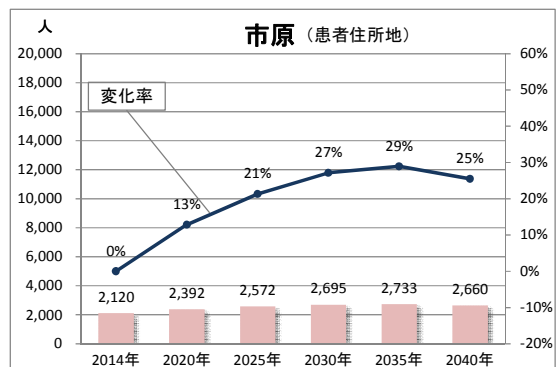
◆75 歳以上は 2030 年に対 2014 年 81%増でピークを迎え、2040 年の 68%増まで下降。



## 2. 入院患者数

◆1日あたり入院患者数は、2035 年をピークとして 2,733 人、対 2014 年の同患者数の 29%増と推計。

◆一般に、高齢の入院患者に多い、「呼吸器系の疾患」、「循環器系の疾患」が大きく増加。



2035年疾患別 対2014年入院患者増加率(患者住所地 市原)

呼吸器系の疾患	74%	内分泌、栄養及び代謝疾患	23%
循環器系の疾患	55%	皮膚及び皮下組織の疾患	20%
消化器系の疾患	50%	神経系の疾患	16%
損傷、中毒及びその他の外因の影響	48%	新生物	12%
血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	36%	眼及び付属器の疾患	9%
腎尿路生殖器系の疾患	35%	精神及び行動の障害	-1%
筋骨格系及び結合組織の疾患	29%	妊娠、分娩及び産じょく	-29%
耳及び乳様突起の疾患	-	周産期に発生した病態	-32%
感染症及び寄生虫症	25%	先天奇形、変形及び染色体異常	-

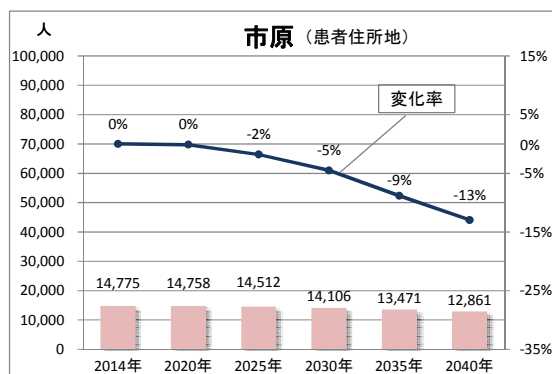
市原保健医療圏の医療機関の入院患者住所地	
患者住所	構成比
千葉	6.5%
東葛南部	0.7%
東葛北部	-
印旛	0.5%
香取海匝	-
山武長生夷隅	10.4%
安房	0.6%
君津	7.0%
市原	71.6%
県外	2.1%
合計	100.0%
医療圏外計	28.4%

市原保健医療圏の住民が入院する医療機関所在地	
医療機関所在地	構成比
千葉	16.7%
東葛南部	1.1%
東葛北部	-
印旛	1.3%
香取海匝	-
山武長生夷隅	4.1%
安房	0.8%
君津	5.4%
市原	66.1%
県外	4.3%
合計	100.0%
医療圏外計	33.9%

- ◆ 出産年齢人口が減少することから、「周産期に発生した病態」、「妊娠、分娩及び産じょく」の患者数は大きく減少。
- ◆ 市原保健医療圏の医療機関の入院患者のうち、同医療圏以外の住民は 28.4%。
- ◆ 市原保健医療圏の住民が入院する医療機関の所在地は、同医療圏以外が 33.9%。

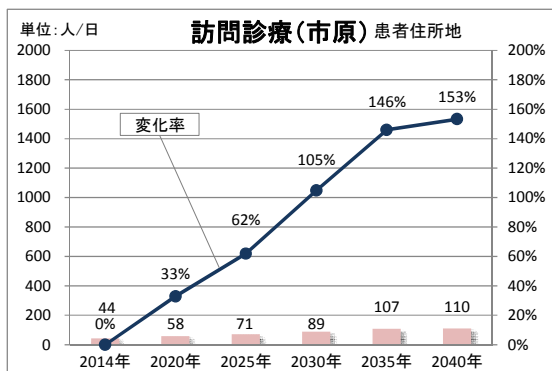
### 3. 外来患者数(往診・訪問診療含む)

- ◆ 1日あたり外来患者数(往診・訪問診療含む)は、一貫して減少。2040年には12,861人で、2014年の同患者数の13%減と推計。
- ◆ 一般的に、高齢外来者に多い、「循環器系の疾患」が増加。



2035年疾患別 対2014年外来患者増加率(患者住所地 市原)

循環器系の疾患	9%	皮膚及び皮下組織の疾患	-14%
筋骨格系及び結合組織の疾患	-2%	損傷、中毒及びその他の外因の影響	-14%
消化器系の疾患	-2%	耳及び乳様突起の疾患	-15%
血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	-2%	先天奇形、変形及び染色体異常	-
神経系の疾患	-4%	精神及び行動の障害	-18%
眼及び付属器の疾患	-4%	感染症及び寄生虫症	-19%
新生物	-5%	呼吸器系の疾患	-25%
内分泌、栄養及び代謝疾患	-6%	妊娠、分娩及び産じょく	-29%
腎尿路生殖器系の疾患	-9%	周産期に発生した病態	-



※ 往診患者数の推移については、患者数が10人未満の年があるため表示しない。  
 ※ 各表中のパーセンテージの欄が「-」となっているところは、患者数が10人未満。

